

福井県高P連 会報

発行人 福井県高等学校PTA連合会
 (福井県生活学習館)「ユー・アイふくい」内 増永哲也



サッカー(福井・高志)決勝(資料提供:日刊県民福井)



会長挨拶

増永哲也

今年七月から新しく会長を務めさせて頂くことになりました羽水高
 校育成会顧問の増永です。途中からの登板ではありますが、全力で任
 を果たしたいと思っております。皆様のご協力をよろしく願っています。
 当連合会は、県内の加盟総数三十三校(公立三十二校、私立一校)に
 よるPTAの連合会で、情報を共有し連携して子供たちのための活動
 を行なっています。

この七月に、北信越地区高P連研究大会福井大会が「再発見!愛」
 をメインテーマにして開催されました。子どもたちを取り巻く環境の
 変化に伴い発生する諸問題に対し、保護者としてどう対処すべきかにつ
 いての各県PTA活動の発表と活発な質疑応答がなされました。また、
 田辺義慶氏による記念講演では、今後の活動への「ヒント」を得ること
 ができました。皆様のご協力に心から感謝申し上げます。

今年度の活動については、柱となる理事会や委員会の活動を中心に
 進めていきたいと思っております。いじめやネット依存、薬物乱用や犯罪防
 止、更には、主権者教育への取り組みが必要であります。また、県高
 P連研究大会やキャリアやガイダンス研修会の充実を図ることが求め
 られています。国の大学入試制度改革に伴う進路指導の見直しや約
 二十五%しかない県外進学者のUターン率の向上なども喫緊の課題と言
 えます。

学力・体力の向上と豊かな人間性や社会性などの「生きる力」を身
 につけるため、福井県が策定した「教育振興基本計画」を念頭に、こ
 れまで取り組んできた活動を更に発展させてまいります。

PTA活動の目的は子どもたちの夢と希望がかなえられるように、
 「家庭」、「学校」、「地域社会」が互いに協力し、子どもたちの健全な育
 成と教育活動の充実を図ることです。そのためにも、県内の高校生が
 安全で安心して学べるための活動や保護者と教職員のための研修行事
 などを通して、福井県のPTA活動を充実していきましょう。

まだまだ微力ではありますが、皆様と共に、未来を生き抜く確かな
 力を身に付けた子どもたちを社会に送り出すことができるように、役
 員一同頑張りますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

第五十四回県高P連年次総会

新年度体制がスタート!

平成二十八年度の年次総会が六月一日(水)、AOSSA 県民ホールで、各单位PTAから会員百七十八名が参加して行われた。

渡邊英明副会長の「開会のことば」の後、挨拶に立った加藤貞信会長は、まず「この一年を振り返れば、全国高P連大会、北信越高P連大会への参加や、指導者研修会やキャリアガイダンス研究大会などでは、代表校の活動発表や講演を聞き議論を重ね、現状や課題の共有をすることができたと思う」と話された。

次いで、「スマホ依存やSNSなどのトラブル問題について、スマホに依存しないルール作りなど、高校生が自ら提言・発信する『ふくい脱スマホ高校生サミット』では助言などを行いました。その他、国体準備委員会への参加

や先端的生命医科学者などの人材を育成する、福井大学『生命医科学フェューチャーグローバルサイエンティスト育成プログラム』への参加など、内外の活動に取り組んでまいりました。

二十八年度に向けては、いよいよ、北信越高P連大会が七月八日(金)九日(土)の二日間にあたり、『再発見!愛』をメインテーマに開催されます。PTA活動のさらなる深化を目指し、大会が成功するよう皆様のご協力をお願いします。また、人口減少・少子高齢

化など子どもたちを取り巻く社会環境が大きく変化する中で、この夏の参議院選挙から適用される選挙権年齢十八歳以上への引き下げや、大学入試制度改革、約二十五%しかない県外進学者のUターン率の低さ、高校生の県外流出など進路対策も喫緊の課題であります。」と話され、最後に、熊本地震やいまだ復興が進んでいない東日本大震災被災地への支援の継続を訴えられて挨拶を終わられた。

来賓として出席された古谷清和県教育庁学校教育幹は、「県は昨年末に『福井県教育振興基本計画』を策定しました。これは、福井型十八年教育の良さをその土台とし、子どもたちが福井への誇りや愛着を持ちながら、自分の夢や希望を実現できる『突破力』を身に付ける、そのような教育を推進してい



古谷学校教育幹祝辞

くこととしています。

スマートフォンやインターネットの利用状況につきましては、全国に比べて福井県では減少傾向にあり、一日二時間以上の利用は約三割と、全国平均の半分以下です。これも学校・御家庭の御助力のおかげであり、今後スマートフォン等のよりよい使い方について話し合う機会を持っていただき、いじめや依存症の未然防止に御協力をお願いいたします。また、『福井しあわせ元気国体』につきましては、平成三十年開催ということで目前に迫っております。高校生も徐々に力をつけてきておりますが、なお一層の育成・強化のため、県としても保護者の皆様とともに応援していきます。

更に大切なことは、本年夏の参院選から選挙権年齢が十八歳以上に引き下げられます。学校でも十八歳以上の生徒が出来ることと出来ないこと、十八歳未満の生徒が出来ることと出来ないことを指導してありますが、これにつきましても御家庭、保護者の皆様の御協力が不可欠です。よろしくお願いいた

します。

来月の八日、九日に福井で開催されると伺っている北信越高大会では、全国トップクラスの福井の教育に関心のある方も、大勢来県されることが予想されます。この機会に、ぜひ本県の教育について多くのことを発信して頂き、実りの大きい大会になるとともに、全国大会同様大きな成果をおさめられることを祈念しています。」と挨拶された。

続いて、来賓の藤澤春和県高等学校長協会長(武生高校校長)は、「三浦綾子さんの小説『氷点』の中に次のような言葉があります。『一生を終えて残るものは、われわれが集めたものではなく、われわれが与えたものである。』という言葉です。将来を担う子どもたちの豊かな成長のために、深い愛情を注ぎ、必要な教育を与えることができる親や教師の仕事というのは、この上ないやりのあるものだと思います。」

しかし、子どもたちを取り巻く現代の社会は、グローバル化による国際的な競争の激化、若者の人口減少による地域社会の活力低下、経済的な格差の



藤澤校長協会長祝辞



開会のことば

拡大など、さまざまな課題を抱えています。また、学校では、いじめや、不登校など学校不応の問題、スマートフォンなどの普及による子どもたちの生活環境の変化など、早期に適切な対応が必要な問題も数多くあります。

このような状況の中、子どもたちの教育について真剣に考えれば考えるほど、家庭や学校、関係機関が連携、協力をしていかなければならないことが多くなってきました。家庭だけ、または学校だけでは限界があり、お互いに信頼し協力して乗り切らなければならぬことが多くあるからです。

P T Aには大きく三つの役割があると思っています。一つは、親や教師が学ぶ場を提供すること。二つ目は、保護者の意見をまとめて代表すること、三つ目は、人手や予算などで学校を支援していただくことです。P T A役員の方には、ボランティアでやっていただくには負担感が大きく、努力していただいてもすぐには結果に結びつかない場合もあるかと思いますが、P・T・Aということですから、どうか、「(P) ばつと・(T) 楽しく・(A) 明るく」でお願いしたいと思っています。

福井県高等学校長協会では、これからも学校運営や教育活動にP T Aの皆様の協力を得ながら、地域に開かれた信頼される学校づくりを進めてまいりますので、格別のご理解、ご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。」と挨拶された。

この後、表彰状贈呈に移り、P T A活動に特に功績のあった五名が県教育委員会から表彰され、各校P T A活動に貢献された五十六名の方々が当連合

会会長から表彰された。次いで広報紙コンクルールの表彰が行われ、最優秀賞藤島高校P T A以下六校のP T Aが表彰された。

続いて議事に移り、平成二十七年度事業報告、会計決算報告が承認されたあと役員の変更が行われ、会長に加藤貞信羽水高校P T A顧問が選出された。退任役員を代表して伊東義之副会長、新任役員を代表して加藤会長の挨拶のち議事が再開され、平成二十八年度事業計画案・予算案が審議のうえ承認された。

次いで、平澤前会長が会則第二十一条にある顧問に就くことが理事会で承認された等の報告があり、下出良一副会長の「閉会のことば」で年次総会は終了した。

なお、会場受付に設けられた熊本地震の募金箱には、羽水高校から三八、八四三円、会員から二〇、〇四二円、東日本大震災の募金箱には、四、〇五二円の義援金が集まったり全国高P連義援金口座に振り込んだ。



県教育委員会表彰

一、被表彰者氏名(敬称略)

*県教育委員会表彰

- 礎 望(敦賀気比) 伊東 義之(丹南) 竹内三知夫(丸岡)
- 前田 周二(武生東) 渡邊 英明(若狭東)

*県高等学校P T A連合会長表彰

各校より推薦されたP T A役員四十六名

二、平成二十八年度役員氏名

- 会 長 加藤 貞信(羽水七月六日まで) 増永 哲也(羽水七月七日から)
- 副会長 下出 良一(坂井)



下出 良一(坂井)



鈴木 良一(丹南)



馬淵 清和(敦賀)

- 理 事 宮越 秀哉(丸岡) 宮谷 正志(福井農林)
- 板倉 行規(武生) 垣本 禎浩(若狭)

- 監 事 和田 良教(足羽) 松本 成樹(大野)

三、平成二十八年度八月以降の主な大会・研修会

- *全国高P連大会千葉大会 八月二十五・二十六日 幕張メッセ
- *キャリアアゲイダダンス研修会 十月上旬
- *研究大会 十一月上旬



知らなかったでは済まされない!

インターネットの利用に関する問題・トラブル

① ネット依存

ゲームや、インターネット上のコンテンツの閲覧、SNS等でのやり取りに、やめられなくなるほど依存してしまい、日常生活に支障をきたしてしまうことがあります。

⇒親子のコミュニケーションやスポーツ、体験活動の機会も大切にしましょう。

② ネット被害

悪質なウェブサイトやアプリによって個人情報が取得され、迷惑メールが届いたり、不正請求をされたりすることがあります。

⇒個人情報の入力、ウェブサイトやアプリが信用できるかよく確かめ、保護者の管理下でさせましょう。

③ SNS等のトラブル

言葉の行き違いや冗談の書き込みから誤解が生じ、友人関係が悪化したり、いじめにつながったりすることがあります。

⇒相手の気持ちを考えてコミュニケーションをとるよう、気を付けさせましょう。

④ 見知らぬ人との出会い

インターネット上には、性別や年齢を偽って近づいてくる人もいます。

⇒インターネットで知り合った人に個人情報を教えたり、直接会ったりすることの危険性を伝えましょう。

この夏、スマホについて家庭で話し合おう



スマートフォンやゲーム機等インターネットに接続できる機器が普及し、多くの子どもたちが、それらを手にする時代になりました。それに伴い、生活習慣の乱れやネットいじめ等の問題、さらには、子どもが犯罪の被害者や加害者になってしまうことも起きています。このようなトラブルは、決して特別なことではなく、どの子どもにも起

こりうることです。実際に子どもたちがインターネットを利用する場面は、家庭が最も多いと考えられます。そこで、保護者が適切に見守り、ルールを作って守らせることは、被害から子どもたちを守るために必要なことであり、保護者の責務であると言えます。

保護者の責務

家庭のルール

「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」に保護者の責務が規定されています。

◆子どものインターネット利用状況を適切に把握する

◆フィルタリング等の利用により、子どものインターネット利用を適切に管理する

◆子どもがインターネットを適切に活用する能力の習得の促進に努める

◆不適切な利用により、売春、犯罪の被害、いじめ等様々な問題が生じることに留意する

子どもの成長や身に付けている知識・モラル・危機回避能力等に合わせて、スマホ、インターネット利用等に関する「家庭のルール」を作りましょう。そして、この「家庭のルール」が生きて働くために何

よりも大切なことは、親子のコミュニケーションで「子どもを見守る」と「子どもを見つめ、見守ること」を大切にしましょう。



福井県では、昨年八月五日に「ふくい脱スマホ高校生サミット」が開催され、各高校から参加した高校生による、三つの柱からなる共同宣言が採択されました。

福井県の高校生による共同宣言

◆スマートフォンを使いすぎないようにするため、生徒個人の意識を高めながら、お互いのルールづくり、高校生らしい使い方について生徒会として取り組んでいきます。

◆「ふくいスマートルール」の趣旨を踏まえて、各学校において、特にSNSなどのスマホの利用時間や適切な使い方などの具体的な対策に取り組んでいきます。
◆使いつぎでいた時間は、高校生として今しかできないこと、例えば、自分の進路や目標を実現するための勉強やスポーツ、人間力を高めるための読書、自然や芸術に触れる直接体験などに使っていきます。

開放的な「夏休み」を迎えます。「インターネット」は生活に不可欠なものになりました。次の時代を生きる子どもたちが、安全で安心なインターネットを利用するために、家庭・学校・地域社会が一体となって、この問題に取り組んでいきましょう。

こどばの森への招待状

夏休みが近づいてきた。子供のころのうきうきとした気持ちを昨日のこのように思い出す。しかし、新学期の始業式の日までもと一週間ともなると...



『スタン・バイン・ミー』(ステイブン・キング 新潮文庫)は、この哀しいような寂しいような時期を扱っている名作である。子供でもないがまだ大人にも成りきれない四人の少年の純粋な友情と涙を描いた物語といえよう。(映画はゴールデングローブ賞受賞、ベン・E・キングが歌う主題歌も有名)本を手にとつて、あの頃を思い出してみたいかでしょうか。

今回は、夏に向け、「暑さ」を友とし汗をぬぐいながらの読書を、皆さんに提案したい。まずは、幼いころを振り返ってみよう。懐かしい本を大人になつて読み返すと、また、違った読後感が得られる。

■三冊の絵本

お話との出会いを、振り返ってみる。最初は、母親である。子を寝かせたために、昔話を何度もしてくれた。「花咲かじい」「一寸法師」「かちかち山」等。テレビもステレオも家にはなかった時代である。何度も何度もお話をせがんだ記憶がよみがえる。

次は、幼稚園や小学校低学年のころ。担任の先生や六年生の女の子が本を読んでくれた。それらは、母の語る昔話とは違うお

話で新鮮であり、とても楽しみにしていた。後年、題名を思い出そうとするが、分からないものばかり。それでもあれこれと探して、見つけ出したものの中から三冊を紹介する。読むたびに、今でも目頭が熱くなる。



『ないたあかおに』(浜田廣介)

人間と友達になりたい赤鬼に対して、友人の青鬼が授けた策とは……。そして、姿を見せなくなった青鬼の家の前にたたずむ赤鬼。戸口に貼られた手紙を読むところで、泣く。



『からすたろう』(八島太郎)

入学した時から、誰からも相手にされず独りぼっち。いつしか「ちび」「とんま」と呼ばれ、みんなから疎まれることになる。それでも、来る日も来る日も一日も休まず学校にやってくる。そして、六年生になる。学芸会の舞台上に彼が立っているのを見て、皆が驚く中、彼はあることを演じ始める。そのところで、決まって涙が出てくる。

『度十公園林』(宮沢賢治)

何を見てもうれしくてたまらない度十。ものをせがんだこともない度十が、初めて母親に頼み事をする。家族はその「企て」を聞き



入れ温かく見守るが、村人は、物笑いの種にする。度十が死んで二十年后、この村出身の大学教授が小学校へ講演をするため帰郷する。そして、あの度十の「企て」の場所へ行くのである。そこで涙が流れる。

■明日の自分を発見する

自分は何のために生まれてきたのか。どのように生きていけばよいのか。子どもたちを見ていると、「生きること」に対する姿勢や軸足が定まっていけないように見える。こういった「生き方」や「生きる意味」について、正面から向き合うことを避けるような時世になってきたのかも知れない。大人の姿勢が問われている。生き方の参考となるのが伝記である。しかし、教科書から伝記教材が消えて久しい。外国では、今でも伝記はとても大切な教材となっている。このようなことを思っていた時に、福井新聞で、次のような記事を目にした。

継体天皇 由利公正 南部陽一郎氏... 先人100人 生き様一冊に 県教委が独自教材「暗唱ノート」も



生き方や人柄が表れた分かりやすいエピソードを中心に、子ども時代の様子や成長過程にも触れているという。この冊子『ふるさと福井の先人100人』は全生徒に配付し、授業の中で活用するそうだ。ありがたい話である。「明日の自分を発見する」ことに興味のある方は、福井県ゆかりの先人を紹介している「福井県立こども歴史文化館」(入館料無料、駐車場有 福井市城東一丁目十八ー二十一)を訪ねることを勧めたい。子どもも大人も楽しめる空間である。



こども歴史文化館 エントランス



一階の受付のところで、福井の先人、達人を紹介した小冊子「これき人物シリーズ」(現在七巻まで刊行)が販売されている。とても読みやすく、貴重な写真も多く、しゃれたデザインの小冊子である。これらの本で紹介されている人物は、継体天皇をはじめとして、泰澄、紫式部、道元、お市、近松門左衛門、杉田玄白、橋本左内、岡倉天心、藤野殿九郎等一七八人である。夏の暑いひとときを、この静かで涼しい施設で過ごしてみたいかがでしょうか。



ちよつとぶじやましまくす!

Introduction

藤島高等学校



編集会議

百五十年を超える歴史と伝統を誇る藤島高校は、「質実剛健」を旨とした教育活動を日々実践しており、生徒たちはこの校風のもと、真摯な態度で学問に取り組み、多くの著名人を輩出していることでも有名です。

その藤島PTAといえば、「広報紙」ならぬ「広報誌」の作成です。数ページの広報紙が多い中、ここ藤島では毎年約八十ページの「PTA通信」を発行しています。

その編集会議を見学しようと六月中旬、藤島高校を訪問しました。毎月慣例で午後一時から二〜三時間もかけて編集会議は行われ、この日も岩本会長以下十名の委員が集まり、今年度の企画に対する熱い議論がなされていきました。ちなみに、年度末になると、さらにヒートアップするそうです。

また、企画段階なのでここだけの話ですが、今回のメインは「藤高生の実態とビジョン」に関する生徒アンケートにしようということで、質問内容も
・藤高生はおしゃれか？
・進学希望エリアは？
・就職したい職種、エリアは？
・何歳ごろ結婚したい？



北信越大会 壮行会

など、親として興味深い質問ばかりで、集計結果が楽しみです。その他のコーナーとしては、PTAサロン、PTAサロナーがあり、毎年PTA会員約三十人が自由投稿しており、人生の先輩としてのいろいろなエッセーが掲載されています。

また、この日は、たまたま「北信越高校体育大会」の壮行会が行われていました。男子バスケット、女子ハンドボール、テニス、陸上等多数の運動部が出演しており、驚きました。多くの生徒が、県大会で引退する中、生徒会長からは「藤島・福井県の代表として結果にこだわらず、内容に後悔を残さないよう頑張つて」との言葉が印象的でした。文化部系が二十五、運動部系が二十五の部があるようですが、進学校で十分な活動時間を確保するのが難しい中、限られた時間を活用して充実した部活動を行なっているのだと感じました。

例年、ほぼ半数の生徒が、難関国立大学に進学しているそうです。勉強、部活と大変でしょうが、福井県を代表する高校として、彼らの将来の活躍に期待感を持つ訪問をすることができました。
(取材 福井商業高等学校 PTA前会長 長谷川義則)

Introduction

三国高等学校



正門前

すがすがしい初夏の好日に三国高校の佐々木PTA会長を訪ねて取材におじゃましました。通称は「三高(さんこう)」。学校再編に伴い家政科が募集停止となり完全に普通科のみの高校となりました。選択科目により「ソフトウエア活用コース」と「人間福祉コース」が設定され独自性を出しています。また、生徒の進路選択のため、PTAと学校全体とで生徒をバックアップしようという一生懸命な姿勢を拝察できました。その努力が結実され、金沢大学、福井大学、福井県立大学をはじめ難関国立大学や難関私立大学などにも合格しています。

「心高かれ」という校訓のもと、一心に志を持ち、それを実現するための惜しみない努力を重ねる。二、一人の人間として充実した生き方を目指すだけでなく、人々の幸福と平和や人類の未来を視野に入れた生き方を目指す。この姿勢が校内で、明るく挨拶してくれる生徒たちから垣間見ることができました。PTAの活動として六月十一日(土)に三高緑陵会館において「進学講演会および短大入試制度説明会」が開催されました。百名以上の保護者の方々が参加され、その関心の高さがうかがえます。説明会では仁愛大学の入試センターの喜多智哉氏から、入試のシステムや費用の面で保

護者が考えておくべきお話を聞いたそうです。また、進路指導部長からの入試制度説明も行われました。毎年、七月にはPTA進路委員会主催の大学見学会も続けられています。昨年度は中京大学名古屋キャンパスに総勢二千三百名で行かれたそう、入試広報課の方からの説明や大学内の様子、模擬授業の様子、体育館、図書館などを見学しながら、生の学生さんの声も聞けて、大変参考になったそうです。同七月には、中学校・高等学校PTA教育懇談会を開催し、川元利夫坂井市教育長とともに、三高高校の現在の様子などを話し合いました。また、三高高校の前年度卒業生から、三高高校の良かったところなどのお話をしてもらっています。その他、五月の三國祭りにはボランティアとして山車曳ぎに参加したり、祭りの清掃活動に積極的に携わったりと、伝統ある地域に根差した学校らしい取り組みが続けられています。九月の学校祭にはPTAが一丸となって模擬店を出店されます。例年早い時間に売れきれの商品がでるなど大盛況で、三日目の体育祭のジュース販売も生徒たちは楽しみにしているの伺いました。伝統校らしく学校、地域全体、PTAが「心高かれ」をモットーに生徒の健やかな成長を願った活動を献身的にされているという印象をもちました。
(取材 丸岡高等学校 PTA前会長 竹内三知夫)



三國祭り後の清掃

この企画は、調査広報委員が直接「ちよつとおじゃま」し、伺った話の中から委員独自の感性でこれにはと思われるものを紹介していくものです。

最優秀賞に藤島高校

第13回 広報紙コンクール

平成28年度広報紙コンクール審査会が4月23日(土)に県生活学習館において開催された。特別審査員に(株)福井新聞社編集局メディア整理部長の奥出剛士氏、河和田屋印刷(株)営業第一課長の黒田清仁氏をお迎えして、8名が加盟27校から応募のあった広報紙の審査に当たった。

審査後の講評をまとめると、甲乙つけがたい作品が多く、評価点を付けるのに苦労した。読まれるための工夫として、①会員の知りたいというニーズを踏まえた内容を、②「見出し・レイアウト・つくり」を考え、③写真だけを並べるのではなく、④文章で的確に表現し、その中に、⑤保護者や生徒、教員の声をすくい上げていくことを心がけると、さらに良い広報紙になるとのことであった。

最終的に最優秀賞1校、優秀賞2校、佳作3校を選んだ。8月に開催される全国高P連千葉大会では、福井県代表として藤島高校と三国高校の広報紙を掲示することも決定した。

表彰は、6月1日(水)の年次総会の席上で行った。

最優秀賞

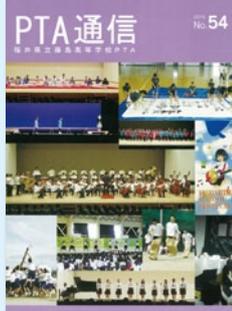
藤島高校

優秀賞

三国高校 科学技術高校

佳作

足羽高校 大野高校
敦賀気比高校



藤島高校



三国高校



科学技術高校

各校PTA会長会議

六月一八日(土)に各校PTA会長会議が中小企業産業大学校にて開催されました。自己紹介のあと、四つの委員会に別れて今後の活動計画を協議しました。そのあと引き続いて、拡大実行委員会を開きました。北信越地区高P連研究大会福井大会について、準備状況の確認と部会間の調整等を行いました。

県高P連会長を新たに選出

加藤貞信会長の辞任申し出(六月二七日)に伴い、新たな会長の選出を行いました。北信越地区研究大会福井大会まで一週間ほどに迫る中での選出となりましたが、役員候補者届け出、選考のための理事会開催、各単位PTAの承認手続きを短期間の中で実施しました。その結果、新会長には、増永哲也氏(福井大会実行委員会総務部長・羽水高校)が選ばれました。緊急事態ということで、会則に定められているようには実施できなかったことをご了承ください。

北信越地区研究大会 福井大会 盛会裏に閉幕する

七月八日(金)九日(土)の二日間にあわたって開催された「北信越地区研究大会福井大会」が無事終了すること

インフォメーション

ができました。皆様のご協力に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。この大会の詳細につきましては、次号でお伝えします。

70年ぶりの改革 18歳選挙権、施行される

一九四六年以来、七〇年ぶりに「公職選挙法」が改正(平成二八年六月一九日施行)され、選挙権年齢が「十八歳以上」に引き下げられた。その最初の選挙が七月一〇日投票の参院選であった。

日本は、少子高齢化、人口減少社会を迎えた。この状況下において、日本の未来を作り担う存在である一〇代が、より早く選挙権を持つことで社会の担い手であるという意識を若いうちから持ち、主体的に政治にかかわる若者が増えることを期待しての選挙権年齢の引き下げという。

国は、選挙の重要性を説明した副教材「私たちが拓く日本の未来」を全国の高校生に配布し、県では、この副教材を授業等で活用した主権者教育を実施し、各市町の選管は、県下の高校で選挙についての説明会を開催した。

会員の皆様のご家庭では、この改正公職選挙法の施行に対して、どのような対応をされたでしょうか。親として、これからの選挙について話し合うことが求められる。

高校生総合保障制度 発足後22年目を迎えて

平成七年度に発足しました高校生総合保障制度も、毎年多くの加入を頂いており、保護者各位ならびに学校関係者各位のご理解とご協力のもと、当制度は各校のPTAの事業として推進が図られています。

毎年、事故の増加している**自転車**の事故に重点をおいた**補償プラン**になっており、自転車による賠償事故や搭乗中の生徒本人のケガについて大きな補償を設定しています。

ところでこの時期になりますと、当制度に未加入の保護者の方から「入学時に手続きを忘れたので…」、「子どもがクラブ活動を始めたので…」などの理由から中途加入をご希望されるケースがあります。また、加入手続をされていない保護者におかれましては、このような場合にも備えて是非、当制度の加入をご検討いただければ幸いです。

○中途加入に関するお問合せ先
高校生総合保障制度事務局
株式会社アイル保険センター

〒91010003

福井県福井市松本4丁目6番15号

TEL:0776-2313419

(受付時間:9時~17時 土、日、祝日、年末年始除く)

○保険金の請求方法

保険金の請求についてはお手元にご加入者証をご用意のうえ、事故受付専用フリーダイヤル(0120-130013 99)までご連絡ください。

平成28年度版

福井県高等学校PTA連合会

高校生総合保障制度 ご案内

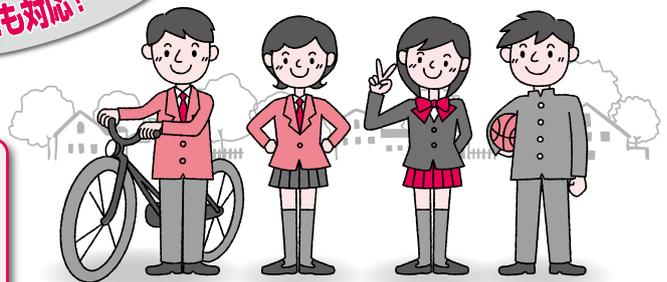
[こども総合保険+自転車総合保険]

部活動によるケガや自転車事故によるケガ・個人賠償責任にも対応!

本制度の特徴

大切なお子さまを補償期間(保険期間)中、
学校が休みの日でも**1日24時間補償**します

ただし、一部の補償は24時間補償ではありません。



2016年6月現在の内容です。

自転車事故等による
損害賠償責任も

最高2億円まで補償

示談交渉サービス*
付帯!

男子小学生が夜間、帰宅途中で自転車で走行中、歩行中の女性と正面衝突。女性が頭蓋骨骨折で意識不明 約9,520万円の賠償命令(神戸地裁判決)

*示談交渉を行う場合は、被保険者および被害者の同意が必要です。

簡単支払特急便

スピード対応
お電話一本で手続き完了

ケガによる入院・通院で5万円以下のご請求は、
電話による事故報告のみで保険金をお支払いします。

ハロー健康相談24

受付時間 24時間年中無休

- ◆夜間・休日の医療機関案内
 - ◆真夜中の急病 ◆ケガの応急手当
 - ◆医療・ストレスに関して電話でアドバイスします。
 - ◆薬の不安・疑問 ◆食欲不振
 - ◆人に話しにくい病気
- 医療機関に関する情報も提供します。

団体割引 15% 適用

地震・噴火・津波補償

地震・噴火・津波による事故でケガなどをされた場合に補償します。

*プランによって補償項目が異なります。詳細はパンフレットをご確認ください。

育英費用高額プランのご案内

お子さまの将来のために 育英費用高額プラン

※育英費用高額プランとは、基本プランの育英費用一時金100万円に400万円を上乗せるプランです。